

工夫をしながら、より良いものをつくることを目指す



佐藤 璃久さん 小坪 竜大さん 野田 勇志さん
(吉浜養殖研究会会員)

友達・先輩の存在が、漁業に従事することを決意させた

(小坪) 私たちは、皆、家族経営でホタテとワカメの養殖をしています。小さい頃は、漁業を継ぐ気持ちはありませんでしたが、テレビで漁師の特集を観て、気持ちが変わりました。高校卒

業後、まず漁協の定置網漁船に乗り、ロープの結び方等、漁業に必要な基礎知識を学びました。

(佐藤) 私は、東京の大学で学び、就職先も決定していましたが、祖父が高齢化してきたこともあり、いつか漁業をするなら、今すぐにやろうと考えました。悩ましましたが、最終的には、彼(小坪さん)が先に漁業をやっていたことが大きかったです。彼がいなかったら別な仕事を選んでいたかもしれません。

漁業は自分がやっただけ成果がでるところが面白い

(野田) 私は、この二人が先に漁業をやっていたから、自然と漁業をやろうという気持ちになりました。

(佐藤) 海の状況は、その年によって違います。続けていくためには、色々な工夫が必要です。

(小坪) 前の年より良いものを、多くつくるために頑張っています。他の漁業者のやり方を聞き、工夫もしま

す。地道に、だけど、今年よりは来年良いものをつくれるように頑張ろうと思っています。

(佐藤) ここ数年、ホタテの生育が悪かったため、昨年、養殖研究会では他の養殖物の可能性についても試しました。牡蠣を、カゴに入れ、一個ずつバラバラで育てる

シングルシードという方式の養殖試験です。新しいことを試す発想の転換も必要なのかもしれません。そして、漁業は、とにかく同じ作業が続きます。ただ、自分がやっただけ成果がでる。それがサラリーマンとは違う一番の魅力で、面白いところですよ。



養殖中のホタテの稚貝から、付着した海藻などを取り除く作業をする小坪さん

三陸沿岸を県北から県南まで、夏イチゴ生産地として繋げたい



ゆうき 太田 祐樹さん
(株式会社リアスターファーム 代表取締役)

三陸沿岸道路が全線開通したことにより販路拡大が実現

私は新潟大学大学院自然科学研究科で学び、農学博士を取得しました。その後、岩手県の任期付き研究員として、陸前高田市でイチゴの周年栽培について研究し、平成30年に当社を設立しました。

イチゴは暑さに弱く、通常12月から5月にかけての冬春採りか、7月から11月までの夏秋採りでしか栽培できません。しかし、当社では、三陸沿岸部の涼しい気候を生かし、一年中イチゴを栽培、提供するを実現しました。国産のイチゴが不足する夏場にも安定供給できるのが魅力で

す。これにより、三陸沿岸を県北から県南まで、夏イチゴの生産地として繋げ、最終的には、国内イチゴ生産量一位の栃木県を超えたいです。

イチゴは傷みやすいので、収穫後すぐに冷蔵して、出荷しなければなりません。三陸沿岸道路の開通で、仙台まで短時間で運ぶことができるようになったことが、コストを抑え、販路を拡大することに大いに役立っています。

イチゴを活用する人や企業と連携して、地域を活性化したい

夏イチゴの生産量を増やしたい。次は、このイチゴを誰かに活用して欲しいと思っています。例えば、お菓子作り教室のようなことから、当社と一緒に、何かをやってみたいと思う人や企業があれば連携したいです。

それが地域の活性化に繋がると思っています。小さな連携から、イベントの開催や小売り販売、商品開発など大きな連携に繋がっていくけば、もっと地域を元気にすることができると考えています。

収穫したイチゴは、主にケーキ等のお菓子に使われている。



気仙杉を利用した木骨ハウスは、熱の吸収抑制に優れ、イチゴ栽培に最適



株式会社
リアスターファームHP